

大鶴見川砂防堰堤

大鶴見川 (現在大鶴目川)は、今庄屏風谷を源に、狐谷において日野川に入る 2km の流域です。明治 28 年(1895 年)9 月の大強雨の際に小屋ヶ谷の山腹が崩壊し、家屋を埋塞し、死傷者 10 余人を出し、溪間の田畑大部分が流亡しました。福井県は明治 34 年(1901 年)度施工の石積堰堤 2 ヶ所を築造しました。

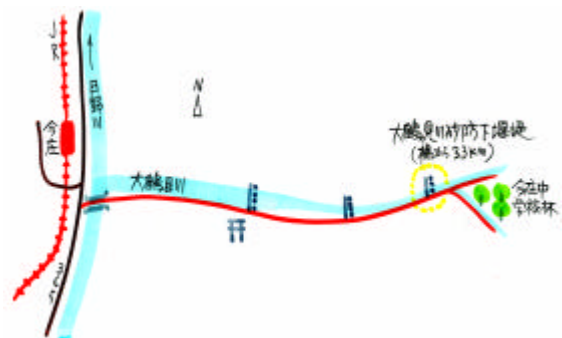
施設種類	延長	平均高	馬踏 / 敷幅	工費	摘要	堰堤名称
石堰堤	36.36m	6.1m	3.6m/15.7m	2,215 円	法割	下堰堤
石堰堤	12.7m	4.7m	3.6m/13.0m	690 円	法割	上堰堤

以上明治 36年 月調「砂防沿革大要」から抜粋編集しました。



大鶴見川砂防石積下堰堤 2006 年 4 月 30 日撮影 :Y.TANAKA

強固な岩盤を利用した築堤と水通しは、安定感と美しい落水の景観をみせています。堰堤は空石積みで築かれていますが目立った石積みの欠落や崩れなどはみられず、今なお砂防施設の機能を保ち続けています。堤体の草刈りや流木を取り除くと雄大な明治の石積砂防堰堤が現れます。標識を建て土砂災害の歴史に学ぶ教材にしたいと提案します。上堰堤は未だ見つけていません。



2006 年 5 月 16 日
環境文化研究所 田中保士

